

計算式から肥満度を求める方法(学童)

$$\text{肥満度}(\%) = \{ \text{実測体重}(\text{kg}) - \text{身長別標準体重}(\text{kg}) \} \div \text{身長別標準体重}(\text{kg}) \times 100$$

$$\frac{\text{係数}a \times \text{実測身長}(\text{cm}) - \text{係数}b}{}$$

身長別標準体重を求める係数

年齢	男子		年齢	女子	
	a	b		a	b
5	0.386	23.699	5	0.377	22.750
6	0.461	32.382	6	0.458	32.079
7	0.513	38.878	7	0.508	38.367
8	0.592	48.804	8	0.561	45.006
9	0.687	61.390	9	0.652	56.992
10	0.752	70.461	10	0.730	68.091
11	0.782	75.106	11	0.803	78.846
12	0.783	75.642	12	0.796	76.934
13	0.815	81.348	13	0.655	54.234
14	0.832	83.695	14	0.594	43.264
15	0.766	70.989	15	0.560	37.002
16	0.656	51.822	16	0.578	39.057
17	0.672	53.642	17	0.598	42.339

(平成24年3月乳幼児身体発育評価マニュアルP65)

(例) 11歳男子 体重**38.0**kg 身長**140**cm

まず身長別標準体重を求めてみましょう。

$$\text{身長別標準体重} = 0.782 \times 140 - 75.106 = 34.374$$

そして肥満度の計算式に当てはめてみましょう。

$$\text{肥満度} = (38.0 - 34.374) \div 34.374 \times 100 = 10.5486\%$$

肥満度判定区分により「標準」となります。

【肥満度の判定区分】

- ・ 高度肥満 +50%以上
- ・ 中等度肥満 +30%以上+50%未満
- ・ 軽度肥満 +20%以上+30%未満
- ・ 標準 -20%以上+20%未満